

創発 Mail Magazine

創発は“インキュベーション”のプロ集団。～問題解決のための新しい戦略・進化～

当メールマガジンは、日本総研/創発戦略センターの研究者と名刺交換させていただいた方に配信させていただいています。>> [登録解除はこちら](#)

当メールマガジンは、HTML形式で配信させていただいております。うまく表示されない方は>> [こちらからご覧ください](#)

| [日本総研/創発戦略センター](#) | [研究員紹介](#) | [セミナー・イベント](#) | [書籍](#) | [掲載情報](#) |



創発戦略センター
所長
[井熊均](#)

IKUMA Message

... from 創発戦略センター所長 井熊均

日本独自の貢献

中国の合肥市で、同市と国家発展委員会が開催するPPP(Public Private Partnership)のセミナーに参加してきました。

中国では、急激な経済成長と都市化によって基礎インフラと公共サービスの整備が追い付かない、という状況が発生しています。一方で、税収は増えたものの、公的負債も拡大し公共主体で全てを整備するのは得策ではない、という認識が広がっています。1980年代の日本と似た状況と言えます。そこで、公共資源の市場化をテーマにPPPを普及しようと言うことです。

セミナーでは我々の他に、イギリスのHM Treasuryの国際部門の人達も招かれました。自分のスピーチでは、イギリスはPPPの先達であるとして敬意を表しましたが、彼等と並んでも日本のPPPが評価される面があります。自治体が主体となり、数多くの住民向けサービスの事業を立ち上げてきたからです。昨年ADB (Asia development bank) のセミナーに招かれた時にも同じような評価を受けました。経済発展と都市化で都市の生活レベルの向上が求められているアジア諸国では、民間のノウハウを使ったPPPへの高いニーズがあるのです。こうしたニーズを受け止め、日本の資金やノウハウを提供すれば、アジア諸国の発展に日本独自の貢献ができるはずです。

日中関係の悪化もあり、日本では中国に対して悪いニュースばかりが報道されがちです。しかし、中国は経済力だけでなく優秀な人材にも事欠きません。日本の有識者が彼等と話して感じるのは、日本を始めとする海外での実績を实によく勉強していることです。PPPに関する理解も一般の新興国のレベルを超えています。日本の知見が貢献できる今こそ、この国と実りある付き合いができないといけないと思いました。

[Ikuma's Photo]

自由化の方向が決まり、電力市場は盛り上がっています。

しかし、何時の時代も、技術革新は市場創出の大きな力となります。

本書では、革新が進む分散型エネルギーの可能性を複数の視点から論じています。

■ [書籍](#) >> [各書籍情報はこちら](#)

「自動運転」が拓く巨大市場2020年本格化するスマートモビリティビジネスの行方」日刊工業新聞社
 「2020年、電力大再編 電力改革で変貌する巨大市場」日刊工業新聞社
 「性能限界」(日刊工業新聞社)
 「電力不足時代の企業のエネルギー戦略」(中央経済社)
 「図解 グローバル農業ビジネス」(日刊工業新聞社)
 「次世代エネルギーの最終戦略 使う側から変える未来」(東洋経済新報社)
 「なぜ、日本の水ビジネスは世界で勝てないのか」(日刊工業新聞社)
 「中国環境都市 中国の環境産業戦略とエコシティビジネス」(日刊工業新聞社)
 「図解 次世代農業ビジネス—逆境をチャンスに変える新たな農業モデル」(日刊工業新聞社)
 「甦る農業 ～セミプレミアム農産物と流通改革が農業を救う～」(学陽書房)
 「グリーン・ニューディールで始まるインフラ大転換」(日刊工業新聞社)
 「図解 企業のための環境問題 Ver.3」(東洋経済新報社)
 「自治体再生 資産リストラで財政破綻を回避せよ」(学陽書房)
 「よくわかる最新バイオ燃料の基本と仕組み」(秀和システム)
 「ポスト京都時代のエネルギーシステム 分散型電源と再生可能エネルギー」(北星堂書店)
 「だから日本の新エネルギーはうまくいかない！」(日刊工業新聞社)
 「中国エネルギービジネス」(日刊工業新聞社)
 「プロフェッショナル・サラリーマン」(水曜社)
 「図解でわかる 京都議定書で加速されるエネルギービジネス」(日刊工業新聞社)
 「実践的事業者評価による自治体の調達革命」(ぎょうせい)
 「図解よくわかるバイオエネルギー」(日刊工業新聞社、編著)
 「燃料電池ビジネスの本命“住宅市場”を狙え！」(日刊工業新聞社、編著)
 「プロジェクトマネジメントの考え方 進め方」(オーエス出版社)

■ [Ikuma Message](#) バックナンバー



創発戦略センター
 マネジャー
[徳村光太](#)

創発eyes

… 研究員による創発最前線

介護保険制度改正、マーケティング的アプローチで「新しい総合事業」を創る

平成26年6月に介護保険制度の改正案を含む「地域医療・介護総合確保推進法」が成立した。これにより平成29年度末までにすべての市町村において、要支援者の訪問介護とデイサービスが、保険給付から「新しい総合事業」（介護予防・生活支援サービス事業）へと移行されることになった。

「新しい総合事業」は保険給付と異なり、市町村が自らの裁量によって、サービスの運営主体・提供方法・提供範囲・利用料等を設定することができるようになる。例えば、介護保険事業者以外の民間企業やNPOが自宅に訪問して行う掃除や洗濯サービス、運動や入浴などの特定コンテンツに特化したミニデイサービス、リハビリ・栄養等の専門職によるセミナー、ボランティアが運営する食事や飲み物を提供するサロンといった様々なサービスが全国で生まれる可能性がある。

「新しい総合事業」の導入に向けた検討課題は多岐に渡るが、市町村がまず取り組むべきことは、地域に暮らす高齢者のニーズを十分に分析することだ。

市町村が高齢者のニーズを把握する仕組みとして、高齢者の身体状況や生活上の困りごとを尋ねる「日常生活圏域ニーズ調査」というアンケートがある。しかし、現在実施されている日常生活圏域ニーズ調査の報告書では、「全高齢者のうち日用品の買い物ができない人が～%、自分で食事の用意ができない人が～%」といった設問毎の集計が中心となっており、サービスのターゲットとなる高齢者像がイメージしにくいことが多い。

そこで筆者らが提案したいのは、日常生活圏域ニーズ調査の項目を用いて高齢者を同じニーズや性質を持つセグメントに分類するマーケティング的アプローチである。例えば、「一人暮らしの男性で、料理ができず、低栄養のリスクが高いセグメント」、「女性で、坂の多い地区に暮らしており、筋力低下によって閉じこもりがちなセグメント」といった分類を行うことで、ターゲットとなる高齢者像が明確となり、サービスの提供方法や提供範囲を検討しやすくなる。

創発戦略センターでは、複数の市町村の協力を得て、高齢者をセグメントに分類

しサービスの検討を支援するデータ解析手法について研究開発を進めている。高齢者にとって魅力的なサービスが生まれる一助となるべく、研究を進めていきたい。



創発戦略センター
コンサルタント
[宮内 洋宜](#)

研究員エッセイ

行動の記録にまつわるあれこれ

何事につけ、「記録を取る」ということは、単純なことでありながらとても重要です。議事録を作ることは新入社員の頃から大事な仕事でしたし、今でも打ち合わせなどでうまくメモを取ることはその後の仕事をスムーズに進めるための当然のコツとして意識しています。より良いアウトプットや結果につなげていくためには、記録を取るだけではなく取った記録を分析することが望ましいのですが、取りっぱなしでも効果があるようです。各種の見える化や一時期話題になったレコーディングダイエットなどが典型的ですが、記録を通じて行動を意識するようになるからでしょう。

この記録という行為を応用して、物事を継続するためのモチベーションにする方法があるそうです。ジェリー・サインフェルドというアメリカのコメディアンは、毎日必ず1つネタを考えることを日課にしていました。彼は自分にプレッシャーを与えるために大きなカレンダーを準備して、日課通りにネタを考えたい日は日付のますに大きく×印を書き込むようにしました。毎日続けていくと、×印が鎖のようにつながっていきます。するとこの鎖が途切れないようにしましょう、というのがモチベーションになり、日課を続けられるのだそうです。このサインフェルドの方法は"Don't break the chain."と呼ばれ、取り組みを継続するためのライフハック（生活のコツ）として知られています。続けるコツは、日課をあまり大変なものにしないこと。できれば10分からせいぜい1時間ぐらいで達成できる内容にするのがいいそうです。そして、もし途切れてしまってもまた1から伸ばしていくこと。

ちなみに、自分も最近ハマっている記録行為があります。と言っても、サインフェルドの方法のようなストイックな記録ではなく、もっとずっと気楽なものです。「さけのわ」というiPhoneアプリなのですが、これは飲んだ日本酒を記録するものです。銘柄を登録することで都道府県の白地図が埋まっていきます。手段が目的化している気もしますが、全県制覇を目指して居酒屋では以前よりもいろんな日本酒に手を出すようになり、生活の楽しみが増えました。

飲んだら運動ということで、次に気になっているのは活動量計です。ライフログやアクティビティトラッカーなどとも呼ばれますが、腕時計型のデバイスで1日の運動や睡眠の状況を計測・記録するものです。様々な商品が次々と登場しており、目移りしているところです。

割と飽きっぽく、三日坊主を自認する私なので、いろいろな方法を組み合わせて良い習慣を続けていこうと思います。もちろん、お酒は控えめに。

編集後記

蚊取り線香、花火、夕立の後の匂いを嗅ぐと夏らしさを感じ、どこか懐かしい感覚になるのがとても好きです。

匂いと記憶は結びつきが強いと言われていたそうです。夏休み、匂いを感じながら、たくさんの思い出を作られてみはいかがでしょうか。

※記事は執筆者の個人的見解であり、
日本総研の公式見解を示すものではありません。

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター Mail Magazine (隔週火曜配信)

このメールは創発戦略センターメールマガジンにご登録いただいた方、シンポジウム・セミナーなどにご参加いただきました方、また研究員と名刺交換した方に配信させていただいております。

【発行】株式会社日本総合研究所 創発戦略センター
【編集】株式会社日本総合研究所 創発戦略センター編集部
〒141-0022 東京都品川区東五反田2丁目18番1号
大崎フォレストビルディング

TEL: 03-6833-6400 FAX: 03-6833-9479

<配信中止・配信先変更・配信形式変更>

<http://www.jri.co.jp/company/business/incubation/mailmagazine/>

